

中学校レベルにおけるアウトプット能力養成をめざした Large Grammar 活動——理論と実践 (2) ——⁽¹⁾

*足立 和美

キーワード：Large Grammar 活動、Combination 活動、Expansion 活動

1. はじめに

この論文では、Swain のアウトプット仮説と Widdowson らの唱える発話におけるチャンクの役割を組み合わせた活動の実践的な方法について述べる。

これまで、足立(2009a)は、アウトプット仮説とチャンクの役割を論じ、この二つを日本の中学生レベルの英語力に合わせて統合した活動を Large Grammar 活動と命名した。次に、Adachi (2009 b) は、アウトプット活動における仮説の生成と仮説の検証の機能について論じた。また、Adachi *et. al.* (2010)は、暗記、模倣と(新たな)文生成との質的な違いを論じ、そして文生成の際に重要であると考えられる Approximation の概念を述べた。足立(2011年6月)では、以上の研究をまとめ、Large Grammar 活動の三つの機能とその理論的な背景について発表した。ここでは、以上のような理論的研究を踏まえて、Large Grammar 活動の具体的な実践方法について述べるとともに、まず最初に大学生を対象に試行し、そこで得られたデータに考察を加える。

2. Large Grammar 活動の理論的背景

Swain のアウトプット仮説では、インプット活動とは異なる、アウトプット活動に付随する独自の四つの機能が述べられている。Swain は、四つの機能の内、主にその中の三つの機能について研究を進め、やがて研究の中心を Collaborative Dialogue へ移行させていくのだが、アウトプット仮説の最初の四つの機能とは、大まかには、

- (1) Fluency
- (2) Hypothesis testing
- (3) Syntactic processing
- (4) Feedback

であった(Swain 1993)。

Large Grammar 活動は、Swain のアウトプット仮説を出発点とするものの、日本の中学校レベルの学習者を対象としているために、上記の四つの機能を同時にすべて含むことはしない。伊東(2008:11)も、「このアウトプット仮説を安易に取り入れることは適切ではありません。むしろ、日本の英語教育を取り巻く事情を勘案して、日本独自の位置づけが必要だと思われます」と述べている。また、足立(2009 a)では、Swain のアウトプット仮説をさらに詳しく検討して、その四つの機能が日本で応用できる方法に指針を与えている。その研究を受け、この論文ではまず、「アウトプット能力」を、「メッセージを一文レベルの形式で表すことのできる能力」と定義し、Swain の四つの機能の内、文生成のために必要な最低限の機能である (1) (2) のみを取り上げて、後者の (3) (4) は対象から外している。(これを扱う活動は Small Grammar 活動と呼び、別途検討する予定である。) この結果、Large Grammar 活動は、

- (1) Fluency (cf. Schmidt (1992), Ellis (2005))
- (2) Hypothesis testing (cf. Swain(2005), 村野井 (2006))

そして、Large Grammar 活動固有の機能として、

- (3) Approximation

の三つの機能を含む。Adachi *et. al.* (2010)は、チャンク⁽²⁾と呼ばれる言語単位を利用したこの三番目の機能の必要性と特徴、さらにこれまで重視されてきたエラー概念を転換させる必要性について論述している。

3. 実践のための二つの活動タイプ

上で定義したアウトプット能力養成を目指した Large Grammar 活動の具体的な実践例が、以下の二つである。

*学習科学講座 教科教育：国語・英語・社会・家庭コース（英語教育）

(1) Combination 活動

これは、文生成のための導入的活動という位置づけの活動である。その具体的な方法は、

- a. 二つのチャンクを限られた時間内に組み合わせる (→機能 (1))
- b. 二つのチャンクを組み合わせる新しい文を作る (→機能 (2))
- c. 二つのチャンクを組み合わせる大まかに文法的な文を作る (→機能 (3))

であり、a. は Large Grammar 活動の機能 (1) を育成し、b. は機能 (2)、c. は機能 (3) とそれぞれ対応させてある。

(2) Expansion 活動

これは、文生成のための発展的活動という位置づけの活動である。その具体的な方法は、

- a. 一つのチャンクを限られた時間内に拡張する (→機能 (1))
- b. 一つのチャンクを拡張して新しい文を作る (→機能 (2))
- c. 一つのチャンクを拡張して大まかに文法的な文を作る (→機能 (3))

であり、a. は Large Grammar 活動の機能 (1) を育成し、b. は機能 (2)、c. は機能 (3) とそれぞれ対応させてある。

Combination 活動も Expansion 活動も、上の a. b. c. の三つの条件を満たすことにより、該当する Large Grammar 活動の機能を育成できることが期待される。

4. チャンク表の例、大学での授業の概要、得られた文例、活動の展開

- (1) 学習用チャンク表の例 (Appendix 1)
- (2) 授業の概要 (Appendix 2)
- (3) Combination 活動で作られた文例 (Appendix 3)
- (4) Expansion 活動で作られた文例 (Appendix 4, Appendix 6)
- (5) 活動の展開 (Appendix 5)

5. 結果と考察

Combination 活動の結果は Appendix 3 に掲げてある。この活動で得られた文例には、大まかには以下のような特徴、傾向が見られた。

- ・5分間でつられる数はだいたい8~15文程度
- ・意味の曖昧な例 (A-6; B-7, 13 など)
- ・事実と異なる例 (A-3)
- ・同じチャンクを繰り返して使用している例 (B-9, 10)
- ・三つ以上のチャンクを使用した例 (A-8)
- ・本文とは異なる意味になった単語がある例 (A-5, 7)
- ・チャンク表以外の表現を付け足した例 (B-3, 11, 12)
- ・チャンク表の表現を変えた例 (B-4: is → are; B-11: What' s → What: likes → like)

Expansion 活動の結果は Appendix 4 に掲げてある。この活動で得られた文例は、大まかには以下のような特徴、傾向が見られた。

- ・TOEIC の得点と文の数の関係は不明
- ・同じチャンクを繰り返し使う傾向 (C-1, 2, 3, 4; D-1~14)
- ・自分の興味あることに関係付けようとする傾向 (E-2, 4, 5)
- ・新しい文の「新しさ」(creativity) や「長さ」には程度に差 (C-5, D-1 vs. E-4)
- ・文法上のミスなどは後続の Small Grammar で対応する予定 (E-4)

なお以下は、共通教育英語 (工学部 2 年 (TOEIC: 400~500)、38 名) の小テストに Expansion の課題を課した結果 (一部) が以下である。ここでは、“I was surprised at” というチャンクを自由に拡張させた。

・ *seeing ghost when I was child*

- *the change of his face*
- *the game that students win*
- *present you gave yesterday*
- *that I have slept on one day*
- *a lot of bees in my terrass*
- *my pet started talking in English*
- *the news*
- *the baseball game*
- *breaking my chair*

ここでは、Expansion のような課題が通常の授業内で評価の手段として利用できる可能性を見ようとした。また、Appendix 6 は、Expansion 活動の応用形として、三つのチャンクを使ってまとまりのあるストーリーを作らせた例である。このような方法を用いることにより、一文レベルを超えたアウトプット活動が実践できる可能性がある。このように、小テストに組み込んで評価の一部に利用したり、あるいはアウトプットをストーリーにまで発展させることも今後の課題である。

6. まとめ

これまでわが国の中学校レベルにおける英語教育では、アウトプット能力を養成することが困難であった。それは従来、このレベルの学習者にふさわしい文生成のための理論と実践方法とが未開発であったからではなかろうか。従来の英語教育では文生成のための活動は主に、既習の文や単語を駆使して新たな文を作らせようとしたのだが、その際、文の枠組みも、またそれを埋める語彙も同時に生成させようとしていた。そこにはアウトプットのための順序性が欠落していたのである。他方、アウトプット能力が実際に文を作ることで養われることは経験上理解されていた。このことは、“Practice makes perfect.” といった古くからあることわざなどによく現れている。しかしながら、その“practice”の中身と理論的な裏づけは不十分であった。このために、モデル文やダイアログの模倣と繰り返しがアウトプット活動と誤解されてきた。足立の発表（2011年6月）は、その理論的な裏づけが、時間的な制約、仮説の生成、そして「大から小へ」の順序性にあることを明らかにした。

さらにSwainは、アウトプットは「過程」（“process” “verb”）であることを強調している（2005:471）。すなわちアウトプットとは、蓄積された静的な結果としての知識の総体ではなく、そのつど新たに生成される一過性の動的な過程を指す概念なのである。すると第二言語でアウトプットできることとは、限られた時間内に、大まかなながらも新たな文を生成する行為そのものであると定義できよう。ゆえにコミュニケーションとは、理解（reading, listening）と生成（speaking, writing）のいう二方向を持つ動的な過程であり、『指導要領』にあるコミュニケーション能力とは、そのような認知的な行為ができる能力を指す言葉なのである。この論文で紹介したLarge Grammar 活動とは、以上のような意味での（生成方向の）行為ができる能力を育成することを目指した活動となっている。その中には、Combination という比較的簡単な活動と、Expansion という難易度のより高い活動が含まれていて、学習者は段階を踏んで文生成の練習に取り組むことが可能となっている。今回このようなLarge Grammar 活動を試行し、Appendix 3、4、6 に示した結果が得られた。ここに掲げた文例は皆、上で定義した行為の具現化したものである。このような行為の積み重ねがやがて基礎的なアウトプット能力に繋がることが期待される。今後はさらに中学生を対象とした授業を実践し⁽³⁾、Small Grammar 活動も含めた試行の効果を検証していく予定である。

7. 注

- (1) この論文は、2011年8月20日、21日に行われた、第37回全国英語教育学会山形研究大会で口頭発表した内容である。
- (2) この研究で使用しているチャンクの定義は、足立(2009a:26-27)を参照。
- (3) 鳥取大学大学院生の1人が、平成23年9月16日に、鳥取大学附属中学校2年生全クラス（約150名）を対象にしてLarge Grammar 活動を試行し、データを得た。また足立は、同年10月に附属中学校2年生が大学で授業を受けるという企画「知の冒険」の一環として、6名の中学生にLarge Grammar 活動を試行した。これらの試行から、Large Grammar 活動は中学生レベルでも無理なく適用できることが確認された。さらに、平成24年2月から、附属中学校2年生担当の英語教諭がLarge Grammar 活動を用いた授業を実践している。
- (4) Filler とは、discourse marker と呼ばれ、発話中の沈黙などを避けるために使われる表現であり、“well,” “you know,” “I mean” などがその例である。

6. 引用文献

- Adachi, K. (2009b). On hypothesis formation (HF) and hypothesis testing (HT) in output activities. *Regional Sciences on Education*, 1, 1, 22-26.

- Adachi, K., Wang, S., & Kaheiran, M. (2010). To return the horse before the cart—How can teachers encourage students to produce more output in the second language? — *Regional Sciences on Education*, 2, 1, 58–68.
- Ellis, R. (2005). Measuring implicit and explicit knowledge of a second language. *Studies in Second Language Acquisition*, 27, 2, 141–172.
- Schmidt, R. (1992). Psychological mechanisms underlying second language fluency. *Studies in Second Language Acquisition*, 14, 4, 357–385.
- Swain, M. (1993). The output hypothesis: Just speaking and writing aren't enough. *The Canadian Modern Language Review*, 50, 1, 158–164.
- . (2005). The output hypothesis: Theory and research. In Hinkel, E. (Ed.), *Handbook of research in second language teaching and learning* (pp. 471–483). Mahwah, New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.
- 足立 和美 (2009a). 「Swain と Widdowson—アウトプット仮説とチャンクを用いた中学校レベルにおけるスピーキングとライティング指導の理論的枠組み—」『中国地区英語教育学会研究紀要』, 39, 21–30.
- 足立 和美 (2011). 「中学校レベルにおけるアウトプット能力養成をめざした Large Grammar 活動——理論と実践 (1) ——」第 42 回中国地区英語教育学会岡山研究大会発表資料.
- 伊藤 治巳 (編著) (2008). 『アウトプット重視の英語授業』東京: 教育出版.
- 高島 英幸 (編著) (1995). 『コミュニケーションにつながる英文法』東京: 大修館書店.
- 村上 龍嗣 (2012) 『Large Grammar を用いたアウトプット活動の実践—新しい文を作る英語力の養成を目指して—』鳥取大学大学院地域学研究科修士論文.
- 村野井 仁 (2006). 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』東京: 大修館書店.

Abstract

On Large Grammar Activities for Enhancing Output Skills in the Second Language at the Junior High School Level—Theory and Practice (2)—

ADACHI, Kazumi

Key words: Large Grammar Activity, Combination Activity, Expansion Activity

This is the second part of the related two articles. In the first part, I delineated the theoretical background of the large grammar activity which comprises of 'fluency,' 'hypothesis formation and testing,' and 'approximation.' In this paper, I have described the practical procedures involved in the large grammar activity: the combination activity and the expansion activity. In this practical framework, the former encourages the learner to produce new, novel sentences by combining two (sometimes more) chunks whereas the latter encourages the learner to create new, novel sentences by expanding the provided chunks, exploiting one's existing knowledge in the memory system. It turned out that both methods are quite effective in eliciting new sentences from university level students. It is hoped that this teaching approach will help develop in the learner the coveted communicative competence, which ought to be construed not as a static body of knowledge but as a dynamic process or 'a verb,' as pointed out by Swain. Our next challenge will be to apply this method to the learner at the junior high school level and see its effectiveness at this level.

Appendix 1 学習用チャンクの例 (New Crown 2)

Lesson 5-1

No.	
1	what kind of dream
2	do you have
3	we all have
4	different dreams
5	Eri wants to
6	be an astronaut
7	Akira wants to
8	be a musician
9	Junko wants to
10	travel around the world
11	(and) see many places
12	today I'm going to
13	tell you
14	about my dream

No.	
1	どのような夢を
2	持っていますか
3	みんなが～を持っています
4	違った夢を
5	エリは～になりたがっています
6	宇宙飛行士になる
7	アキラは～になりたがっています
8	音楽家になる
9	ジュンコは～になりたがっています
10	世界中を旅行する
11	(で、) たくさんの場所を見る
12	今日、私は～をしましょう
13	みなさんにお話しする
14	私の夢について

Appendix 2

授業は概ね以下の手順に従って行った。

導入的な活動 (インプットの確認)

① テキストリーディング

- ② 生徒同士がペアでチャンクの練習
- ③ 教師と生徒でチャンクの練習 1 (インプット活動)
- ④ 教師と生徒でチャンクの練習 2 (後の Large Grammar 活動 (Combination 活動) を考慮してチャンクを二つずつ練習させる。)

例：1—9： 1—10： 4—16： 6—11： 6—15： 7—10： 11—15： 11—16： 15—9： 15—5： 13—5： 12—8： 12—5： 12—8： 11—10： 11—9： (2回。教師は連番で番号を言い、生徒は、チャンク表を見ながら発音。発音に問題のある場合は、繰り返し練習。)

- ⑤ 各チャンクの単語の発音指導

- ⑥ Filler ⁽⁴⁾ の指導 (“Well”)

ヒントのある Combination 活動

- ① 生徒の活動—Speaking

(連番は使わないように注意を与える。生徒は、チャンク表 (英文) を見ながら活動をする。)

例：T：1—(9)： May I, (well) release water?.

11—(10) Well, the Internet is the hottest of the three.

例： ヒント： 4 + (=and) (X=エックス) ; 6 + () ; 7 + () ;
12 + () ; 13 + ()

ヒントのない Combination 活動

- ① ヒントなしでの生徒による活動 (Writing)
- ② 生徒は各自、5分間でできるだけ多くのチャンクの組み合わせを書く。
- ③ 5分後に生徒はペアで、お互いに交互に作った文を言い合う。多く作った方が、勝ち。(競争意識。Fluency の養成)
- ④ Tは、5分後にそのうちの 5 文程度を板書する。2 文以上の組み合わせがあればそれも紹介する。
- ⑤ 文法上のミスなどを指摘し、教師と生徒のやり取りを通して文を完成させていく。

ヒントのある Expansion 活動

- ① 生徒の活動—Speaking

例： 1 and X → May I, well, have your telephone number?

X and 16 → Well, well, are there any stores around here/.

(“well” を使わせる。)

- ② 活動例: ヒント: $1 + (X)$; $(X) + 4$; $6 + (X)$;
 $(X) + 8$; $13 + (X)$; $(X) + 16$;

ヒントのない Expansion 活動

- ① ヒントなしでの生徒による活動 (Writing) g
- ② 生徒は各自、5分間でできるだけ多くのチャンクの組み合わせを書く。
- ③ 5分後に生徒はペアで、お互いに交互に作った文を言い合う。多く作った方が、勝ち。(競争意識。Fluencyの養成)
- ④ 教師は、5分後にそのうちの5文程度板書する。2文以上の組み合わせがあればそれも紹介する。
- ⑤ 文法上のミスなどを指摘し、教師と生徒のやり取りを通して文を完成させていく。

さらにクリエイティブな Expansion 活動

ここでは、写真を加えた Expansion 活動を行う。

- ① 生徒は3つのチャンクと関連した3枚の写真を見て1分間ストーリーを考える
- ② 1分後に、生徒は写真絵を見ながら自分の考えたストーリーを話す

Appendix 3

Combination 活動の文例

- 方法: 筆記
- 時間: 5分

【Student A (TOEIC 510)】

1. It sounds difficult + to learn English.
2. I have + no problem.
3. They ruled India + to learn English.
4. It comes from + many languages.
5. The British left + many languages.
6. You use + a little.
7. The language remains + no problem.
8. Do many people + come from + the British.

(New Crown 2, 6-3)

【Student B (TOEIC 500)】

1. Wearing a bandana + is from Hindi.
2. It's the word + bandana.
3. It's + one of + the Hindi words.
4. Hindi words + are from Hindi.
5. What's + the word 'bandana.'
6. There are + many Indian languages.
7. This is a photo + in English.
8. She likes + wearing a bandana.
9. And you like + an Indian language.
10. And you like + the word 'bandana.'
11. What + does + she like
12. An Indian language + is + from Hindi.
13. It's + wearing a sari.

(New Crown 2, 6-1)

Appendix 4

ヒントのない Expansion 活動の文例（イタリクス部が追加を示す。）

- 方法：筆記
- 時間：5分

【Student C (TOEIC 398)】

1. An Ainu musical instrument *is very popular in the world.*
2. An Ainu musical instrument *is sold in the shop.*
3. *I met my friend* at the Ainu festival.
4. *I bought my camera* at the Ainu festival.
5. *You can* play it well.
6. You can hear *the music of the concert near your house.*

(New Crown 2, 4-2)

【Student D (TOEIC 590)】

1. An Ainu musical instrument *is good.*
2. An Ainu musical instrument *is difficult for me to play.*
3. An Ainu musical instrument is *easy to play.*
4. *I heard beautiful sounds* at the Ainu festival.
5. *I found many interesting things* at the Ainu festival.

6. *I could learn Ainu culture at the Ainu festival.*
 7. *I met my friends at the Ainu festival.*
 8. *I ate very delicious foods at the Ainu festival.*
 9. Listen to me *and write down what I say on your book.*
 10. Listen to me *very carefully.*
 11. *I know that she can play it well.*
 12. *If only I could play it well.*
 13. You can hear *a lot of sounds at the park.*
 14. You can hear *my voice on the phone tonight.*
- (New Crown 2, 4-2)

[Student E (TOEIC 590)]

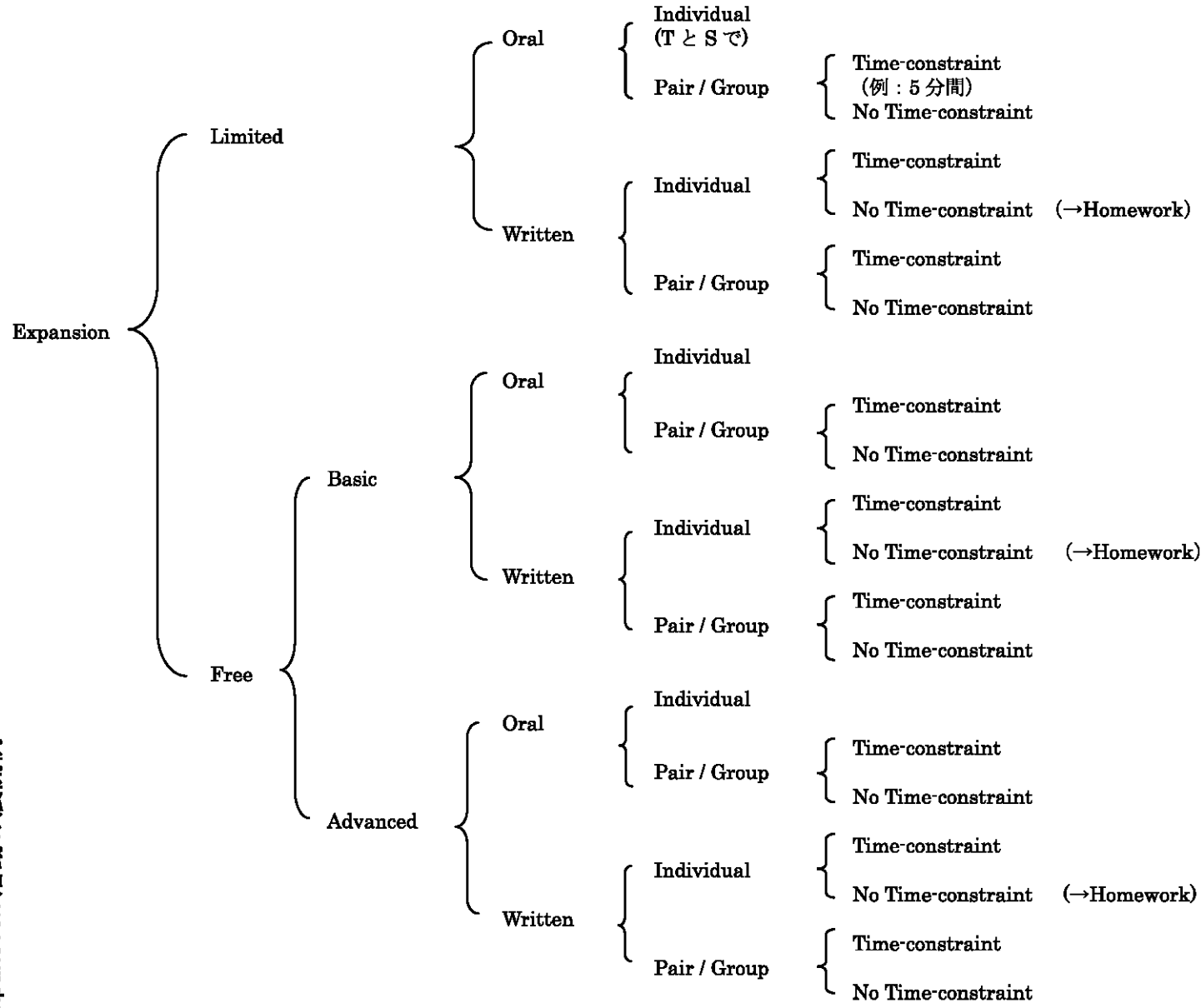
1. May I *season this kavaage with lemons?*
2. There are many plants *which eat small insects like flies.*
3. The building *is managed by Yakuza (Japanese gangster).*
4. I think *cicada is very powerful insect because they keep on barking since it has been an imago until it dies.*
5. It's the most beautiful *classic music by Franz liszt*

(New Crown 2, 7-3)

N.B.: = 不明瞭な語

Appendix 5

Expansion 活動の展開例



Appendix 6

よりクリエイティブな Expansion 活動の文例 (*New Crown 2, 7-3*)

○ 方法: 口頭

○ 時間: 与えられた写真付きの三つのチャンクを見て1分間ストーリーを考えた後に発表させた。(以下の資料は、録音したものを書き出した。イタリクス部が追加を示す。)

[Student C (TOEIC 398)]

There are many plants...ah...*on the earth. We can use...use...dis, discourses. Look at picture2. There are many plants on this roof. The plants protect...protect...there're the building from the sun. ...There are many building...in the city and around here. There are not treat hand plant. We can, we should...well...we should...we should use many plants to protect the environment.*

N.B.:... = unfilled pauses

[Student D (TOEIC 590)]

There are many plants *a, around us. For example, there're beautiful flowers, some beautiful trees and so on. But these days, human release a lot of CO2 and...pollute...pollute water, so we have to, we have to think about the environmental problems. So what should we do? There are some solutions. One of them is...ん〜...the idea of green, a green roof. It is...the way, the way of...ん〜...what the way ...how to green house is that, we plants a lot of trees on the roof of buildings. It's a good idea because there are a lot of building around here, so, what have to do first is that we found that there are a lot of building around here, and we should plants each...each buildings so we should...so...we have to think about environmental problems more deeply. We have to start with a green plant?...green...green roof.*

N.B.: ん〜 = 日本語